

国民の世論と運動で「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年6月24日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

まともなくらしを保障させよう！

参議院選挙直前 6月22日 札幌と函館で360人が集会・パレード



参議院選挙直前の6月22日(土)、社保協と消費税廃止連絡会は、社会保障・税一改革をやめて、社会保障を拡充させるために、札幌と道南(函館)で「まともなくらしを保障させよう! 決起集会」とパレードを行いました。

自公・民主政権の悪政で、国民の命やくらし、地域経済が脅かされています。各分野から深刻な実態と取り組みが報告され、参議院選挙をはじめ、共同したたかひの意志統一をしあいました(集会には札幌で300人、函館で60人が参加しました)。

札幌の集会は、板谷みきょうさんと和田こーへーさんの生演奏(右写真)で始まり、三浦誠一道生連会長の開会あいさつ、



7人(生活保護、労働者、女性、年金者、障害者、業者、弁護士)から決意表明され、黒沢幸一道労連議長が閉会あいさつ、団結ガンバローを唱和しました。最後は函館での集会パレードの様子も上映され、全員で「上を向いて歩こう」を歌い心一つにし、中心街へパレードしました(決意表明の内容は、ニュースで紹介します)。

生活保護費の引き下げやめろ! 私も不服審査請求します

はじめに、生活保護当事者で、生活と健康を守る会の後藤昭治さんが決意表明しました。

今でも節約 「引下げられたら生きていけない」

「生活保護を利用しているが、今の保護費で、冠婚葬祭を諦め、僅かな食費の食事回数を減らし、電気代を節約しています。衣類はフリーマーケットで購入し、冬の寒さを凌いでいます」。今でも節約しているのに、これ以上引き下げられると、生きていくことが脅かされます。

生活保護は最低基準。引き下げは国民生活を直撃

病気で長期入院後に職場復帰しようとしたが、病気を理由に「雇用継続できない」と言われ、展望が見えず家族心中まで考えた身近な男性を紹介。「病気になったのはその人のせいではない」と強調。「貧困は誰の身にも起こる可能性があります」また、「生活保護費の引き下げは、最低賃金や国保料の減免など、多くの人へも直撃します」。「私も不服審査請求を考えています」と決意表明しました。



「生活保護をこわさないで!」 「これ以上の苦しみは死につながります」
「賃金上げて 大金持ちからしっかり税金をとり、消費税upしないでください!」

国会情勢緊迫 25日(火)、餓死、孤立死うみだす生活保護法改悪の採決の動き



集会あいさつでも、参院厚労委員、道内関係議員などへ要請FAX行動を呼びかけ

三浦道生連会長の集会あいさつでも、「生活保護法の改悪が国会会期末ギリギリの25日に強行採決する動きがあります。まだ間に合います」と、厚労委員や議員などへ要請FAX行動を呼びかけられました。上記は、集会で配布した議員などへの要請書「私のひとこと」に記載されたものの一部です。